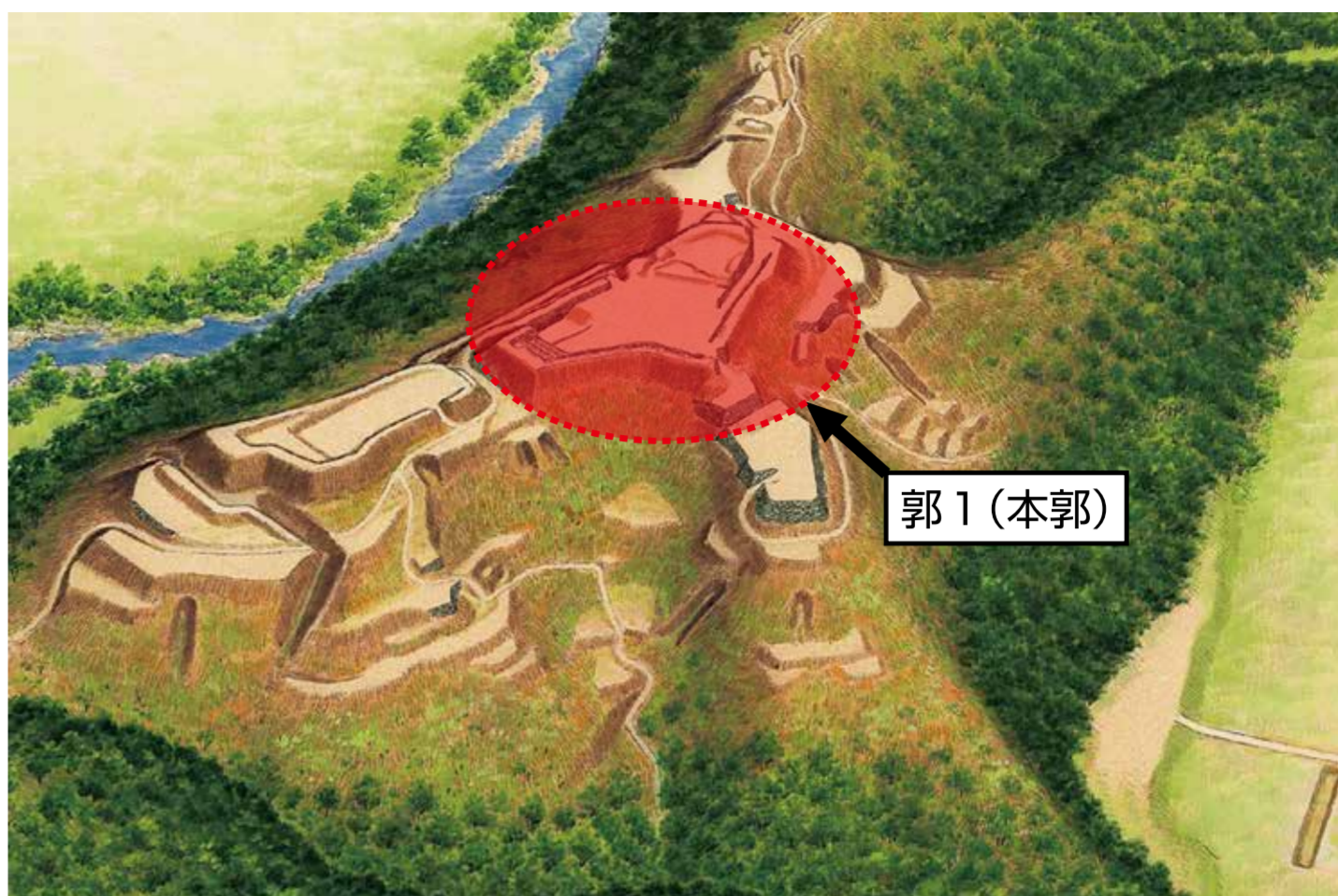


郭1（本郭）と建物跡

虎口の造り、土塁の規模、すべての城道がこの郭に集まる構造から、この郭が城の中心、本郭に当たることが分かります。また、平成16年度の調査により、郭の中央周辺に3～4棟以上の建物が存在することが判明しています。建物は同一又は直行する向きに展開することが予想され、郭の造成軸とも一致することから総じて企画性の高い内部構造であったことがわかりました。

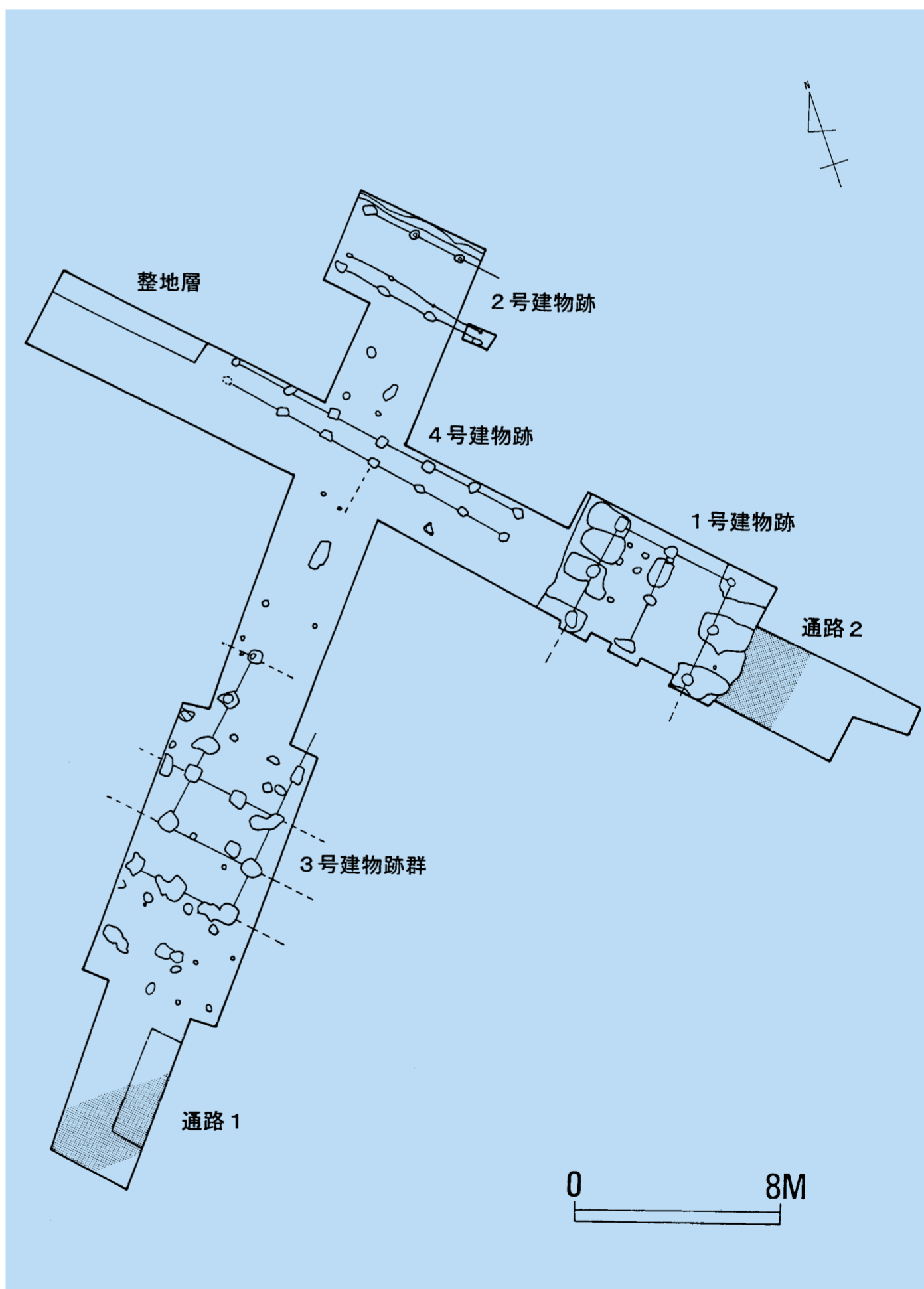


▲ 郭1（本郭）位置図

また、調査で出土した遺物は16世紀前葉から後半で2期以上の変遷を経て存続したことも判明しています。



▲ 郭1（本郭）下段想定建物復元図



▲ 郭1（本郭）平成16年度調査確認遺構平面図



▲ 郭1（本郭）出土白磁・染付・瀬戸美濃製品

コラム 上図は平成16年度調査に基づき調査区内に発見された柱穴から3棟の建物と1箇所の遮蔽施設を想定して描いた復元図で、建物の形や規模の詳細は確定したものではありません。調査では、郭1下段に右図のとおり十字のトレンチを設け大小82ヶ所の柱穴と2ヶ所の通路跡を確認しています。まだ未調査区にも柱穴が埋没している可能性は高く、更に建物の広がることが予想されます。